



へきなんの図書館がすすめる夏休みの本 (5・6年生向き)



図書館（本館・分館）におすすめの本のコーナーがあります。自由研究や工作の本もあります。ぜひ、図書館にきてね！



図書館の利用者カード
をもってるかな？

カードを作りたい人は、自分の住所が確認できるもの（医療費受給者証、水族館パスポート、マイナンバーカードなど）をもって図書館にきてね！
本10冊、AV資料（紙芝居、おもちゃ、DVD、CDなど）5点、雑誌5冊までを15日間、借りることができます。
カードは無料で作れます。（カードを再発行する時は100円かかります）

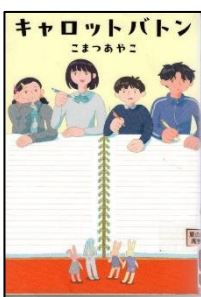


『キャロットバトン』

電子書籍もあります

こまつ あやこ／著 毎日新聞出版（913コ・キ）

友真は運動が苦手で、童話を書くことが好きな5年生。幼なみに「リレーの選手になる」と言ってしまってた時に、上級生から童話の続きを順番に書いていく「童話リレー」をしようと誘われる。



『ぼくとベルさん』

フィリップ・ロイ／著 PHP研究所（933ロ・ボ）

10歳のエディは、なぜか文字の読み書きができません。答えがわかっているのに、簡単な文字も書けないので、みんなから頭が悪いと思われる。しかし、発明家のベルは、エディの賢さを見抜き、助けてくれます。



『ランドリーの迷子たち』

シャネル・ミラー／作 ほるぷ出版（933ミ・ラ）

夏休みに、どこにも連れていってもらえないマグノリアは、両親が経営しているコインランドリーで、つまらない毎日を過ごしていました。でも、引っ越してきたアイリスと、忘れものの靴下の持ち主を探し始めたら、いろいろなことが変わっていきます。



『まるみかん大一番』

まはら 三桃／作 小学館（913マ）

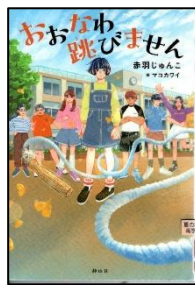
丸美市立みんなの図書館、通称「まるみかん」に、ある日「半年後に閉館します」というお知らせが貼られました。まるみかんのことが大好きな6年生の研心たちは、閉館をふせぐ方法を探し始める。



『おおなわ跳びません』

赤羽 じゅんこ／作 静山社（913ア・オ）

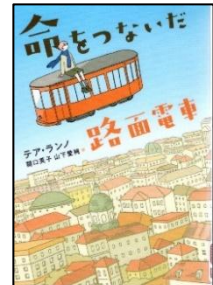
左足にハンディをもつ双葉が、学校行事のおおなわ大会に出ないと言い出した。自分が出るとクラスが勝てないからだと言う。そこで、双葉にも出てほしいクラスメイトたちは、新しいルールと練習方法を考えることにした。



『命をつないだ路面電車』

テア・ランノ／著 小学館（973ラ・イ）

第二次世界大戦中、ユダヤ人はドイツ軍にとらえられて、収容所に送られました。ローマに住むユダヤ人の少年・エマヌエーレもつかまりかけましたが、路面電車の車掌さんが電車に乗せてくれて…。



『糸をつむいで 世界をつないで』

ケイティ・ハウズ／文 ディナラ・ミルタリポヴァ／絵 ほるぷ出版（Eミ・イ）

右や左に糸を動かして、いちだんいちだん布を作っていく織物。織物は昔から、人々の暮らしに欠かせないものでした。世界各地の織物を美しい絵で紹介している絵本です。



『冒険者たち ガンバと15ひきの仲間』

斎藤 惇夫／作 岩波書店（913サ・ボ）

ドブネズミのガンバたちは、イタチに占領された島のネズミたちを助けるために夢見が島へ行きました。しかし、恐ろしいイタチたちが容赦なく、おそそってきます。それでもガンバたちは、知恵と勇気をふりしぼって戦い続けます。



『もしも君の町がガザだったら』

高橋 真樹／著 ポプラ社（302モ）

イスラエルに封鎖され、攻撃を受けているパレスチナのガザ地区の生活の様子と、紛争の歴史を伝える本。
私たちにできることも書かれています。



『モモ』

ミハエル・エンデ／作 岩波書店（943エ・モ）

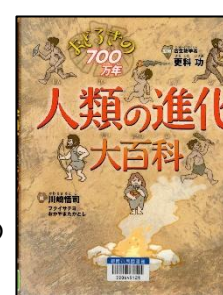
古い円形劇場のあとに住む女の子のモモは、家族やお金がなくてもたくさん友だちがいて、幸せに暮らしていました。しかし、町に灰色の男たちが現れるようになると、みんなモモの所に来なくなってしまいました。



『人類の進化大百科』

更科 功／監修 偕成社（469ジ）

私たちはホモ・サピエンスという最後の人類です。ホモ・サピエンスの前に20種類以上の人類がいましたが、消えていきました。この本を読むと、約700万年の間の人類の進化の歴史がわかります。



『こちら、沖縄美ら海水族館動物健康管理室。』

岩貞 るみこ／文 講談社（480コ）

沖縄美ら海水族館の生き物の健康管理している「動物健康管理室」。生き物の気持ちを考えながら、獣医師、看護師、検査担当者、飼育員が協力して治療を行っています。



『ビジュアル「生きる技術」図鑑』

かざま りんぺい／著 誠文堂新光社（786ビ）

災害時やキャンプに役立つサバイバルテクニックを学べる本。避難小屋の作り方、飲み水や食料の確保の仕方、料理方法、応急手当など、いろいろ載っています。



『やさしいカタチ』 大西 暢夫／著 彩流社（Eヤ）

変わったカタチの車イスのような乗り物の写真。これは重症心身障害者の人たちが使う「姿勢保持装置」です。重症心身障害者の人は言葉を上手に話せません。職人のトラさんは、その人の動きを見て、一番楽だと思ふカタチの乗り物を悩みながら作っています。

